

## 分析センター新規導入装置

2号館  
233B室



高速液体クロマト質量分析装置および  
キャピラリー電気泳動装置(2004年)

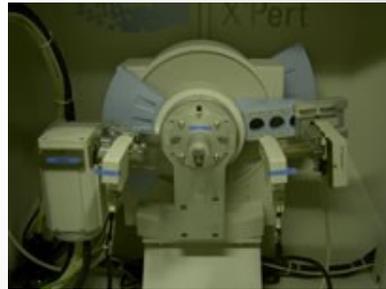
2号館  
204室



ガスクロマトグラフ質量分析装置(2006年)

2号館  
205A室

X線広角回折装置  
(2004年)



2号館  
205A室



X線小角散乱装置  
(2004年)

# 工 化 時 報

第23号



## 理工学部の改革の動きについて



理工学部(駿河台校舎)  
次 長 真下 清  
(昭和43年修士課程修了)

平成19年度から大学全入時代に入ることにはマスコミ等によって広く喧伝されているため、多くの人達は認識しています。私たちの理工学部でも平成18年度入試で新生の定員割れの起きた学科が幾つかありましたが、物質応用化学科もその一つで、これは今までになかった事態でした。志願者は定員以上にいるのですから、受験生のレベルを考えずに合格者数を見込みより増やせば、定員を充足することは出来ます。しかしながら、そうはいかないのが理工学部であり、物質応用化学科であります。やはり実質倍率を少しでも高くしないと学生のレベルの維持が図れないと考えています。学力低下が叫ばれて久しいのですが、それは教えている私たちが一番実感しているため、競争率の高い方がリスクの回避につながるからです。

平成17年10月の越智光昭学部長を中心とした新執行部が発足して1年半が経過しました。上記のような入試一つを取っても大学の置かれている状況の大変厳しいことを垣間見ることが出来ます。そこで新執行部は従来からある種々の委員会に加えて、重点事項を審議答申する次のような臨時の委員会を設置しました。

### 1) 教育改革推進委員会

現行カリキュラムを改定して平成20年度から新カリに移行するための基本方針を昨年11月に策定しました。その骨子は1. 新入生教育(導入教育)の充実、すなわち学習意欲を高めるインセンティブ教育科目の新設、2. 基礎教育科目の充実、3. 外国語教育の充実を図り、出口における卒業生の質の保証を確保することを目的としたものです。現在物質応用化学科でも基本方針に添った内容のカリキュラム編成作業が精力的に行われています。

### 2) 教育組織改革検討委員会

現在12学科からなる理工学部においても受験人口の減少を考えたとき、現行の体制がこれからもずっと続いていける保障は何一つありません。多くの大学で改革が進んでいますが、理工学部でも学科再編と学科定員の見直しをしなければならなくなってきています。学部の経営にも直接関わる内容

を含んでいますので各学科の意見を聞きつつ、迅速で慎重な対応が要求されています。またこれからの大学の評価は大学院の教育研究の充実で定まることが十分考えられますので、その実質化を図るための検討もしています。

### 3) 人事制度改善検討委員会

平成19年度から大学の教員組織制度が文科省の方針により大幅に改正されることになりました。それは従来の教授、助教授、専任講師、助手の職階制度から教授、准教授、助教、助手の制度に変更されました。制度の運用は各大学(特に私大)に任せるというものですが、理工学部では本委員会が中心となって審議答申を行い、新制度に対する理工学部の考え方を出示しましたが、やはり大きな制度改革といえましょう。日本大学では准教授と助教の間に専任講師を置くことになりましたが、助教と新採用の助手は任期制と年俸制が導入されています。

平成20年度を目途に教員の資格審査条件を研究業績、教育業績、学内活動、学外活動(社会貢献)の諸要素をポイント化して、合計点をもって資格判定の際の資料にするよう鋭意検討しています。

### 4) 入学選抜改革検討委員会

大学全入時代に突入した現在、受験生は労せずどこかの大学に入ることが可能になりましたが、学生の質を考えたとき、多くの受験生の集まる大学あるいは学部であることが、これからの勝ち残れる大学の必要条件といえましょう。そのためには大学の教育や研究実績は不可欠ですが、入口にあたる入学選抜もきわめて重要といえます。そのための抜本的な改革を検討した第一次答申案もすでに提出されています。

以上四つの委員会について述べてきましたが、新カリの中で特筆すべきことは「キャリア教育」の充実に力点をおいていることです。それはすでに述べましたように「インセンティブ教育科目」を設置して、将来の進路や就職への意識を初年度から高めるような教育を実施することです。各学科の実状もありますが、資格取得のためのキャリア教育に必要な科目の配置も考慮することになります。その一つであるインターンシップは学生の進路選択に役立っており、現在では社会的に高い評価を得るようになってきております。これに対しても物質応用化学科は積極的に取り組む必要性があります。さらに専門教育を受けるために数学、物理、化学などの基礎学力の充実を図るための「学習支援センター」の設置についても具体的に検討していくことになります。

越智学部長は「個性・特色の輝く魅力ある理工学部の創生」を標榜して着実に努力していますので、校友の皆様にもよろしくご支援、ご協力をお願い申し上げてご挨拶といたします。

## 産学連携と就職について



応化就職指導委員会  
委員長 栃木 勝己  
昭和44年修士課程修了

### 産学連携と就職セミナー

大学も生き残りをかけた時代を向かえ、より魅力ある大学を目指すプロセスの一つに産学連携の強化がある。産学連携は通常、新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の委託研究に関するものと、委託研究、奨学寄附金を受領して行うものに大別される。前者は経済産業省のナショナルプロジェクトへの参加であり、最近ではバイオマスのエネルギー転換に関するプロジェクト(研究代表者:真下清・平野勝己)がある。後者は理工学研究所を通す企業からの委託に対応するものであり、物質応用化学科の殆どの研究室が関係している。教授だけでなく、若手教員も独自に受領しているケースも増えてきている。また、最近、教員の特許件数が増加しているが、この要因として日本大学の産学連携の窓口である日本大学産官学連携知財センター(NUBIC)を通して、各教員の特許申請が容易になった点が挙げられる。この産学連携は就職にも好結果を与えており、徐々にではあるが連携を通して親しくなった企業への就職者数も増加している。

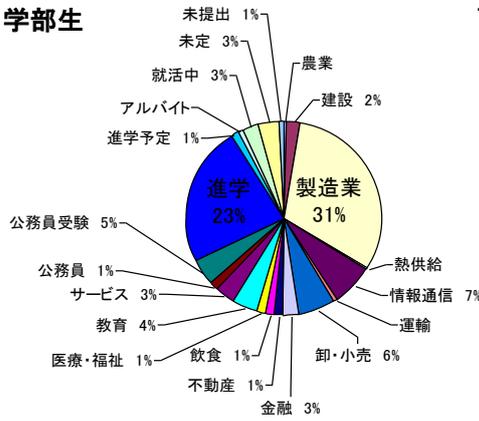
本年度は物質応用化学科主催「第1回物質応用化学科就職セミナー」(工化会後援)を開催する。就職支援策の一環として、学生には就職に対する意識の向上を期待し、また会社の人事担当者および当学科卒業生などと直接面談を行うことにより、採用機会の場を提供するものであり、開催形式は個別面談形式による企業説明会である。30社程度の企業の人事およびOB/OGとの関係強化にも努めているが、これらを契機にして、産学連携も強化できれば良いと考えている。また、昨年11月に開催した就職ガイダンスでは、「日本の製造業における中小企業の夢」と題して、富士特殊紙業(株)筑波工場長の天野弘造氏(昭和59年度学部卒)による講演会を開催し、学生の意識改革に取り組んでいる。

### 上昇気流に乗って強く確かな実績を残す就職状況

さて、好景気を反映してここ数年就職率は上昇傾向にあり、本学科の学生も上場会社に数多く就職するなど健闘しているといえる。企業は化学の基礎知識や語学力、情報処

理能力だけでなく、入社希望の企業に対する考え方や人間性などを選考の対象にしており、また社会が大学院修了者を求めている。求人数は、情報系の多様化に伴って毎年徐々に増加している。就職内定者の内訳は学科の性質上、化学工業関連の企業が多く、製造業が約30%（大学院だけでは70%）を占め、次いで情報通信7%、小売業6%、サービス業3%となっている。大学院への進学者が急増し進学率は25%、その他教員・公務員が7%を占めている。いずれにしても就職決定率は、男女の区別なく就職希望者のほぼ100%に達している。

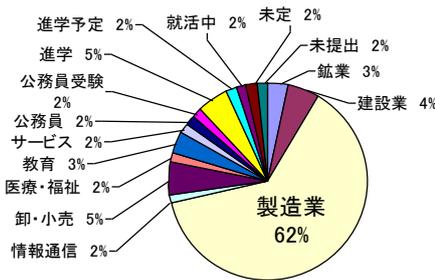
**学部生**



業 種	%
農業	0.5
建設	2
製造業	31
熱供給	0.5
情報通信	7
運輸	0.5
卸・小売	6
金融	3
不動産	1
飲食	1
医療・福祉	1
教育	4
サービス	3
公務員	1
公務員受験	5
進学	23
進学予定	1
アルバイト	0.5
就活中	3
未定	3
未提出	1

**大学院**

業 種	%
鉱業	3
建設	4
製造業	62
情報通信	2
卸・小売	5
医療・福祉	2
教育	3
サービス	2
公務員	2
公務員受験	2
進学	5
進学予定	2
就活中	2
未定	2
未提出	2



**主な就職先**

- 【製造業】トヨタ紡織，大日本印刷，積水化成成品工業，ヤクルト本社，ショーワ，昭和高分子，ペンてる，日産化学工業，東洋紡績，日本全薬工業，アイカ工業，綜研化学，帝国繊維，森永乳業，中外製薬工業
- 【情報通信業】NTT アドバンステクノロジー，富士通エフ・アイ・ピー，東陽電子
- 【卸・小売業】竹田理化工業，大塚商会，出光興産，東京めいらく
- 【教育】日本大学理工学部副手，高等学校教員
- 【公務員】茨城県警察，不破消防組合，埼玉県警察

## 産学交流の今までとこれから



産学連携委員会  
委員長 深津 誠  
(昭和59年博士課程修了)

わが物質応用化学科はその旧学科名（工業化学科）が示すように本来は工学系の学科であるが、ともすると理学系に見られがちである。そのような傾向を是正するとともに、卒業生とのつながりを強めようと、21世紀の幕開けとともに本学科の産学技術交流会が始まった。第1回は「本学科の最新研究シーズおよび分析機器の基礎と応用など」と題し多くの参加者を集めて2001年11月に開催された。翌年以後、他学科からの参加など、新たな試みを加えつつ行われた。2004年の第4回ではノーベル物理学賞受賞者の小柴昌俊先生による講演があった。このように交流会は盛況であったが、産業界との交流を増やすという目的に関しては、共同研究の申し込みが多少は増えたものの、今一つであったと思われる。また、多学科との協調は行われたが、学部レベルでの盛り上がりには多少欠けていた面も否めない。

そこで第5回の産学技術交流会はあえて中止とし、新たな可能性を探りつつ産学交流の仕切り直しをすることとなった。方向性は、従来のように交流会の場に技術や相談を持ち寄るのではなく、直接的な相互の交流を盛んにし、卒業生と大学との距離を縮めて行きたいと考えている。もちろん共同研究のプロジェクトも重要であるが、もっと日常的な行き来が行われるようにすることも重視したい。そのために大学を社会に対してより開かれたものへすべく、より頻繁かつ密接に卒業生との交流をはかっていきたい。催しとしては、学科就職セミナーや2008年の学科創設70周年行事がすでに具体化している。工化会の役員会や総会などもより充実させ、さらにはホームカミングデイを企画するなど、できる限り交流の場を設けていく予定である。卒業生の皆さまにもぜひ出身学科を折々に思い出していただき、学科や研究室の企画への積極的参加をお願いしたい。また、2号館にも気楽に立ち寄っていただきたい。技術交流というと難しく考えがちであるが、出身研究室の天秤をちょっと使いたい、などということからまず初めてみられてはいかがだろうか。

## 分析センターの業務及び 外部委託

分析センター管理責任者 滝戸 俊夫  
(昭和49年博士課程修了)



分析センターは化学物質の機器による分析、及びこれに関する教育、研究を行う目的で1973年に理工学部の理工学研究所施設として駿河台校舎9号館11階(高分解能質量分析装置)及び2号館3階(元素分析装置)に設立されました。現在は8種の測定装置を擁し、すべての装置が駿河台校舎2号館内に設備されております。

これら装置を化学物質の一般計測、構造解析、物性分析に対応させ学部内・外の研究・教育に供しています。各装置の測定には研究者が広く利用できるよう分析装置ごとにライセンス制(現在:学部内に限る)を導入し、講習を受けてライセンスを取得すれば自由に使用できる仕組みを構築しています。また、委託研究、依頼測定を通じて利用範囲の拡大を図るため、所有する分析装置の紹介や利用の手引を整備するとともに比較的安価な料金を設定し、学外との連携を強化しています。卒業生の方たちで測定を依頼される場合は分析センターHPを参照の上お申し込みください。

(<http://www.cac.rist.cst.nihon-u.ac.jp/>)

### 装置一覧(設置場所)

- ・ **元素分析装置** (駿河台2号館 233C号室)  
機種: i) CHN分析: ヤナコ製CHNコーダー(MT-5)  
ii) S分析: 京都電子工業製電位差自動滴定装置(AT-310J)
- ・ **ガスクロマトグラフ質量分析装置** (駿河台2号館 204号室)  
機種: 島津製ガスクロマトグラフ質量分析装置(QP2010plus)
- ・ **フーリエ変換核磁気共鳴装置** (駿河台2号館 206A号室)  
機種: 日本電子製フーリエ変換核磁気共鳴装置(JNM-GX400)
- ・ **電子スピン共鳴装置** (駿河台2号館 204号室)  
機種: i) 日本電子製電子スピン共鳴装置(JES-RE2X)  
ii) 日本電子製エンドール(ENDOR)スペクトロメータ(ES-EDX4)
- ・ **飛行時間型質量分析装置** (駿河台2号館 204号室)  
機種: アプライドバイオシステムズ製Voyager RP-PROマトリックス支援イオン化-飛行時間型質量分析装置
- ・ **X線小角散乱装置・X線広角回折装置** (駿河台2号館 205A号室)  
【X線小角散乱装置】  
機種: Anton Paar GmbH製小角X線散乱装置(SAXSess)  
【X線広角回折装置】  
機種: PANalytical製全自動多目的X線回折装置(X'Pert PRO MPD)
- ・ **高速液体クロマトグラフ質量分析装置** (駿河台2号館 233B号室)  
機種: i) Agilent Technologies製LC/MSD TOF 1100システム  
ii) Agilent Technologies製キャピラリー電気泳動装置

## シリーズ OBからの大学への提言

### 大学との産学連携に求めるもの

Agilent Technologies Inc. 清水 尚登(昭和59年博士課程修了)



文部科学省によれば、平成16年度の国公立大学等と民間企業等との共同研究数は1万件(前年度16%増加)を突破し、今後も増加傾向にあると報告されている。特に近年、ライフサイエンス分野の産学連携が盛んである。また、共同研究の受託研究費総額は1000億円を超え、重要な研究費源でもある。一方、企業にとっても成果を特許化し、独自の技術・製品を持つことの意味は極めて大きい。

日本大学は日本大学産官学連携知財センター(NUBIC)が窓口となり、その促進に努め、受託・共同研究や技術移転の数も年々、増加傾向と報告されている。NUBICのホームページには成果が公開され、例えば物質応用化学科の秋久俊博教授の「ベニカミキリプラスを有効成分とする皮膚外用薬他」等がある。

では、大学と企業はそれぞれなにを期待して、産学連携に着手するのであろうか？大学はこれまでの研究成果を具体的な製品などの形にして、研究活動の活性化や新産業の創出等を図り、経済や学術の発展に寄与することを目的とするであろう。一方、企業は研究費を提供し、新製品を短時間で市場に投入したり、あるいは新しい基礎技術を、今後の開発事業に応用することも期待するであろう。しかし、全ての共同研究が成果を挙げることができるわけではない。例えば、民間企業にとって研究期間は重要で、少しでも早く投資した成果を回収したい。一方、大学は、曖昧な点を残したまま、新技術を移管することを避けるため、基礎研究期間が長くなり、契約した期間内には応用技術にまで至らないこともある。このようなことを防ぐために NUBIC のような支援組織があるが、重要なのは実際に共同研究を行う担当者がお互いの目的をよく理解し、技術力、予算あるいは研究期間などについて誠意を持って事前に納得する契約を結ぶことである。また、大学は研究室のホームページで研究内容、成果あるいは基盤技術等をわかりやすく紹介することも大事ではないだろうか。お互いへの暗黙の期待や了解は避け、共同研究の規模に関わらずキーパーソンが熱意と責任を持ってその共同研究を推進していくことも重要である。

## 物質応用化学科創設 70 周年記念事業 について

工化会会員の皆様にはご健勝にてご活躍のことと拝察申し上げます。ご承知のように物質応用化学科はその前身である工業化学科の設立(1938年：昭和13年)に始まります。したがって2008年(平成20年)には創設70周年を迎えることとなります。この大きな節目にあたり、記念事業の企画を進めるため、平成18年4月に物質応用化学科教室と工化会との合同による物質応用化学科創設70周年記念会の準備委員会がスタートしました。スタート当初は企画の立上げに思案しましたが、幸い先の50周年記念事業での貴重な記録が残されていましたので、その実績を尊重することとしました。しかし、とは申しましても社会情勢は大きく変化し、特に大学を取り巻く環境は一層厳しくなっておりまして、学科の教育研究の推進には工化会会員の皆様の更なるご支援は欠かすことができません。70周年記念事業の企画には、このような情勢に鑑みて、物質応用化学科と工化会との連携が一層円滑に進められることへの期待が込められています。70周年記念事業は、その連携を若い会員の皆様に継承していただく貴重な機会でもあると考えます。そこで、学科の先生方に協力していただいて次のような記念事業を企画しました。

記念事業の名称：物質応用化学科創設70周年記念会

事業内要：1) 記念祝賀会

開催日 平成20年6月7日(土) 17:00～

会 場 アルカディア市ヶ谷(市ヶ谷)

2) 記念誌発行 50周年記念以降の記録

3) 募金 工化会の運営への寄与と物質応用化学科の教育・研究への支援を目的としています

なお詳細は別途ご案内させていただきますが、取敢えず、紙面をお借りして70周年記念事業へのご理解とご協力をお願い申し上げます。

< 記念会準備委員会 >

(委員長) 越智健二

(工化会) 安達昭郎, 藤池誠治, 永島一男, 関口優紀  
(学 科) 栗田公夫, 澤口孝志, 滝戸俊夫, 真下 清

## クラス会・同窓会の報告

### 工化五期会 卒業60年記念 同期会

工業化学科5回生は、終戦直後の昭和20年9月卒業しました。平成17年11月18日、理工学部1号館に近い龍名館にて卒業60年を記念して同期会を催しました。私達は既に年齢80を越えました。久しぶりに集まって旧交を温め、学生時代のことや、学徒動員のことなど、大いに語りあいました。すっかり昔の学生時代に戻り、楽しい一時でした。(前回は平成11年11月、次回はいつやれるかわかりません。)

出席は芦屋や大津からの参加もあって次の12名。畔高清之・畦元直三郎・有山勝陽・伊藤和雄・飯田啓典・井上千吉郎・太田善造・重藤捨央・中井克之・西 勇・藤原一吉・見崎惣太郎。ちなみに、現在(平成19年1月)、生存者37名。逝去者35名。住所不明9名。計81名。

終了後、新しくなった理工学部1号館を見学し、懐かしい2号館を訪れて帰路につきました。



(2007・1・27 伊藤和雄 記)

### 工化35クラス会の集い

平成18年11月10日に恒例のクラス会を行いました。そろそろ古希を迎える者が出てきましたが当日は元気者19名と市川次良先輩先生のご参加を頂きました。回を重ねるたびに昔話と余暇の楽しみについての話題で時間を忘れての会の盛り上がりでした。次回2008には多くの参加者を期待しています。2008年は工業化学科創設70周年を迎えます。記念事業を計画していますので是非参加して下さい。

工化35クラス会メンバーの住所、近況について知りたい方は安達までハガキ、FAX、メールで連絡下さい。

FAX : 045-312-5378 or 03-5793-1562 adachi@p-andc.com



(安達昭郎 記)

## 高分子合成研究室卒業生の皆様 “平成19年度同友会開催のお知らせ”

高分子合成研究室は1972年に設立されてから2007年までにおよそ850名の卒業生を送り出しており、本年37期目の卒業研究生を迎えた。第5回目の総会は2006年12月2日(土)駿河台1号館会議室にて昭和48年卒業の関口優紀博士からの講演もあり、新たに研究室に配属が決まった新4年生も出席して、およそ100名の参加により大盛況であった。豊富な人材ネットワークを気軽に活用できるサロン風産学連携拠点として学内外から益々重要視されはじめている。

本会は、研究室の枠を超えたネットワークへの発展を強く願っている。興味ある方は研究室(矢野 yano: 03-3259-0799; 澤口 sawaguti: -0819; 萩原 hagiwara: -0433; \*\*\*\*@chem.cst.nihon-u.ac.jp)にご一報を! 第6回は2007年11月



産業廃棄物の収集・運搬、中間処理及びリサイクル

 株式会社 **三栄興業**

〒341-0044 埼玉県三郷市戸ヶ崎 3-302

60年卒 **鈴木義弘**

TEL 048-955-1632 E-mail: sanei-k@misato-net.com

ホームページ: <http://www.misato-net.com/3ak/>

24日(土)日本大学理工学部1号館2階カフェテラスにて開催される。(同友会役員：矢野彰一郎会長，津野岳彦，関口優紀および澤口孝志副会長，片桐正志幹事長，鳴原靖宏及び岡崎弥寿子会計，中村信男及び新国禎倅監査)

## 工業化学科昭和42年卒同期会報告

昭和42年卒同期会を，平成18年10月29日(日曜日)，2号館隣の“山の上ホテル”にて開催しました。会に先立て，懐かしの駿河台界限を有志25名ほどで散策，その変わり様に頗る驚嘆，それでも本館に保存された“旧館正門”に漸く昔日の感慨に浸ることができました。

本会は午後5時半開始，卒業から39年，12年ぶりに集まった総勢は35名でした。(ちなみに，総勢149名中通知を届けることができた者115名。回答者74名でした。)団塊の走りとして，定年時期を迎えた顔々には，功成し遂げたというか(諦めがついたというか?)，全体に安堵感に満ちた様子が感じられました。開始前のロビーでの待ち合わせ中は誰だったか思い出すのに多少の時間を必要とした偉そうな老頭老顔達でありましたが，逝去された方々を悼んでの献杯が終わった途端，背中から立ち昇るオーラごと学生色に戻ったことには驚かされました。

あっという間の2時間半でした。必ず元気で3年後に集合することを約束して閉会としました。(5年後ではなんだか不安だとの理由であります。)



(平成18年12月 幹事代表 今田雅躬)

## 訃 報

本学名誉教授 小島和夫先生におかれましては平成19年2月18日にご逝去されました。謹んで哀悼の意を表し，ご冥福をお祈り申し上げます。

## 松本太郎先生・安江 任先生追悼文

### 松本 太郎先生を悼む

本学名誉教授並びに本学科第一回卒業生 松本太郎先生には胃がんのため平成18年7月7日逝去されました。享年87歳でした。先生は昭和21年に本学科に奉職され、同63年に退職されるまで42年間の永きにわたり教育・研究にご尽力されました。先生は「日本油化学会」では第9代会長を務められ、これら学会や官公庁における功績並びに業績などにより、平成4年には勲三等瑞宝章を受章されました。さらに、平成18年9月には「正五位」の位記を伝達されております。先生はご退職の際に、本学科並びに日本油化学会に多額のご寄付をなされており、本学科ではこれを基に「松本基金」を制定し、毎年優秀な卒業生に「松本賞」を授与しております。また、本学科は、平成18年9月には先生のご遺族より松本基金へのさらなるご寄付を頂いております。ここに先生と共に過ごした研究生生活を懐かしく思い起こしつつ、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。なお、平成19年10月には、ご遺族をお招きしての「故松本太郎先生を偲ぶ会」の開催を計画しており、松樹会会員の皆様のご出席をお待ち致しております。

(秋久 俊博)

### 安江 任先生を悼む

安江 任先生は心筋梗塞のため平成18年5月25日に逝去されました。享年63歳でした。葬儀は、ご遺族の意向もあり簡素にしめやかに行われました。安江先生は昭和41年本学科卒業後、美濃窯業株式会社に入社されました。昭和42年に退職され、大学院に入学、昭和45年に本学科に奉職されました。安江先生は論文を調べ、読むのがお好きで、一日中机に向かって書き物をされていた印象があります。普段は温厚なお人柄でしたが、学会などの講演会では厳しい質問をされ、研究に対する情熱を感じました。先生は平成17年6月より無機マテリアル学会の会長に就かれておりました。先生の書かれた解説・総説を含む論文は約200報と非常に多く、日本セラミックス協会関東支部、日本無機リン化学会さらにセッコウボード工業会などから表彰され、今後ますますご活躍されるときにただけに非常に残念です。ここに生前にいただいた先生のご指導に感謝し、ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

(小嶋 芳行)

## 学生編集委員のページ

### 「現在の学生の就職活動」

4年生になると朝から晩まで研究室で研究に没頭していますが、学生にとってそれと同じくらい気になる重要なことは就職です。先生方の話を聞くと、一時期のバブル崩壊後の就職氷河期よりも現在は景気が回復して、就職状況がよくなったと聞きます。それでは、現在の学生の就職に対する考え方は昔と変わったのでしょうか？

そこで、今、学生はどのような考えをもって就職活動をしているのかを知るために、一月中旬に緊急アンケートをとりました。有効解答数は87名でした。その結果から、現在の学生の就職活動の真相について考察してみたいと思います。

#### <アンケート(全6問)>

Q1 いつごろから就職活動を始めましたか？

a: 3年生の12月以前, b: 3年生の1月, c: 3年生の2月, d: 3年生の3月, e: 4年生4月, f: 4年生の5月以降

Q2 会社の情報収集はどのように行いましたか？(複数回答可)

a: リクナビ, ホームページ等, b: 学部就職事務の資料, c: 応化進路指導室の資料, d: 企業の合同説明会, e: 大学主催の企業セミナー, f: 就職活動の掲示板(BBS), g: その他

Q3 いつごろ内定をもらいましたか？

a: 3年生の1月以前, b: 3年生の2~3月, c: 4年生の4月, d: 4年生の5月, e: 4年生の6月, f: 4年生の7~9月, g: 4年生の10~11月, h: 4年生の12月以降

Q4 内定した会社は推薦？それとも自由応募？

a: 学校推薦, b: 教授推薦, c: 自由応募, d: その他

Q5 内定した会社に決めた理由。

Q6 最終的に何社くらい就職活動をしたのか。

PVC・他合成樹脂 コンパウンドメーカー

### 昭和化成工業株式会社

本社・工場 〒348-8585  
埼玉県羽生市小松台1-603-29  
 総務・経理  
TEL 048-561-5221 FAX 048-561-5229  
 生産管理・精算  
TEL 048-561-5222 FAX 048-561-5229  
 技術開発  
TEL 048-561-5225 FAX 048-561-5228  
 品質管理  
TEL 048-561-5226 FAX 048-561-5496

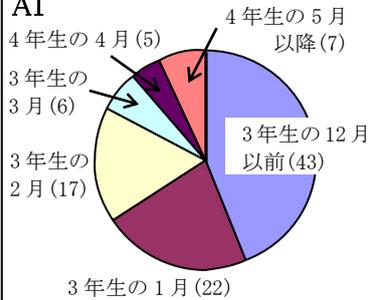
東日本支店 〒113-0033  
東京都文京区本郷3-6-9 エルデ本郷館4F  
TEL 03-5840-5531 FAX 03-5840-5541  
 西日本支店 〒532-0011  
大阪府大阪市淀川区西中島4-3-8新大阪阪神ビル10F  
TEL 06-6307-2727 FAX 06-6307-2748  
 北陸支店 (2007年3月開設予定)  
福井県福井市日之出1-29-1

VINA Showa co., Ltd.  
ベトナム/ホーチミン市

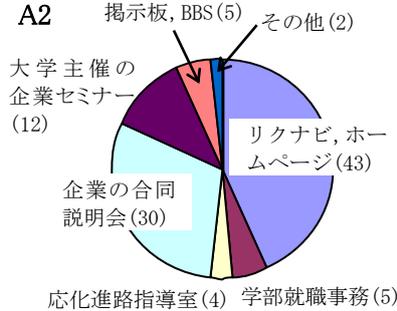
昭和53年卒業 代表取締役社長 池本 俊一

<回 答>( )内は%

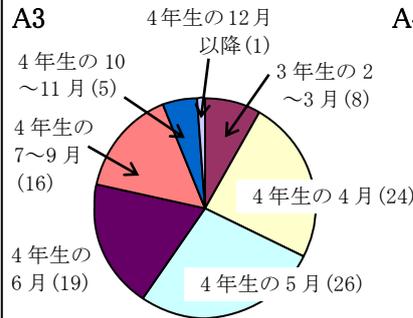
A1



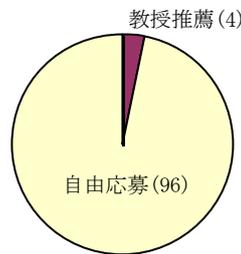
A2



A3



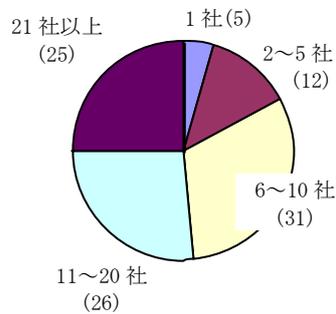
A4



A5

希望する職種だった(16人), 人事や社員の対応がよかった(12人), 興味が持てたため(11人), 職場の雰囲気がよかった(10人), 会社の安定性・将来性(10人), 社風に魅力を感じた(7人), 勤務地(7人), 自分を採用してくれた(7人), やりがいを感じた(6人), 自分の知識をいかせると感じた(5人), 就活に疲れた(4人), 直感(2人), 福利厚生が好ましかった(2人), 他社に比べ印象が強かった(1人)

A6



この結果から、現在の学生の就職活動は3年生の秋ぐらいから会社をホームページから調べて、自由応募で6~10社ぐらい就職活動をし、4年生の5月ぐらいに内定をもらう、ということがわかりました。また、会社を決めた理由はおおよそ、自分がやりたい業種に決める人と、会社の雰囲気で判断して就職する人に2局化できるように見受けられます。また、12月以降に決まる人も若干いますが、就職事務課の先生に聞いたところ、卒業式直前まで先生方が就職の紹介をすることがあり、さらに工化会主催の就職セミナーも行っているので利用してくださいとのことでした。

在学生の皆さんは、この結果を就職活動の参考にして満足する会社に入っていたいただければと思います。

## 平成18年度工化会事業報告

平成18年度工化会通常総会は、駿河台校舎1号館の2階中会議室において平成18年5月20日(土)午後4時より、役員・会員56名の出席を得て開催されました。議長に藤池誠治本会会長を選出し、庶務、会計、会員、会報の各委員会の平成17年度事業報告および会計報告ならびに平成18年度事業計画と予算案の審議を行い承認されました。平成18年度の事業計画としては、役員会・通常総会の開催、講演会の開催(理工学部校友会後援)、オープンキャンパス'06、一日体験化学教室および学科就職セミナーを後援することが決まりました。

総会終了後の恒例の懇親会は、1号館2階のカフェテリア(学食)において予定時間通り、午後5時から開催されました。懇親会の出席者数は52名で、会は澤口学科主任の学内の近況報告に続いて、安達前校友会会長から乾杯の発声をいただいた後、和やかな雰囲気で行われ、午後7時に閉会となりました。

また7月15日(土)に行われた一日体験化学教室は、化学離れといわれている高校生に実験を通して化学の楽しさを知ってもらおうと2000年から行っている学科行事で、本年度7回目を数えます。出席者は140名を越え、評判は上々であったと実施を担当したワーキンググループから報告されております。

さて平成17年度から工化会の予算は、特別会計予算と経常会計予算の2種類を作成することになりました。経常会計とは校友会本部より支給されたお金(校友会補助金)を管理するための会計です。平成18年度特別会計予算は820.7万円(内訳は前期繰越金637.4万円、校友会割戻金65.2万円、会費100万円、その他18.1万円)、平成18年度経常会計予算は168.6万円(内訳は前期繰越金132.6万円、校友会補助金36万円)、一方特別会計予算の支出では庶務費46.2万円、会報費40.0万円(工化時報印刷・郵送費)、会計費2.1万円を予定しました。また、経常会計予算の支出では会運営費A(会員関係)72万円、会運営費B(会員関係)11.8万円、

会運営費C(会報関係)82万円を見込んでいます。この内、平成18年度における会員諸氏による会費の納入状況(平成18年4月6日～平成18年12月4日)は、納入者数が396名、納入金額は1,035,550円であります。会費を納めていただきました会員の方のお名前は御礼の意を込めて、本号の会費納入者氏名一覧に掲載させていただきます。また納入者の中には、複数年度分の会費を納入された方や、寄付をお寄せいただいた方も多数おられます。ここに改めて御礼申し上げます。

最後に平成18年度の工化会主催行事ならびに後援行事の概要を記載します。

- (1) 平成18年4月15日(土) 12:00～13:00  
学内委員会の開催
- (2) 平成18年4月22日(土) 14:00～16:00  
役員会の開催
- (3) 平成18年5月20日(土) 16:00～19:00  
通常総会・懇親会の開催
- (4) 平成18年7月15日(土)  
一日体験化学教室の後援
- (5) 平成18年7月30日(日)  
CSTオープンキャンパス2006(船橋校舎)の後援
- (6) 平成18年12月6日(水) 16:00～17:00  
講演会の開催  
演題:癌治療のためのインテリジェントポリエチレンイミンナノミセル  
講師:国立清華大学講座教授 薛 敬和 先生
- (7) 平成19年3月9日(金) 14:00～17:00  
物質応用化学科就職セミナーの後援

以上 庶務委員

静電容量型変位計・超音波リニアモータの輸入販売

*Progress & Creativity*

**ピー アンド シー株式会社**

〒150-0013 東京都渋谷区恵比須1丁目20番8号

(エビススバルビル5F)

電話 (03) 5793-1561 ファクシミリ (03) 5793-1562

昭和35年卒 代表取締役 **安達 昭郎**

### 会費納入者名簿 (平成19年1月26日現在)

<b>昭和16年</b> 榎村 正久 宮本 謙藏 松田 稔 天野 章 和田守 哲治	<b>昭和24年</b> 渡辺 光夫 宇田 公德 加藤 泰正 市川 二郎 小倉 契秀 青池 嘉一 相原 重夫	石垣 恭弘 竹村 政一 中村 重信 椿山 雄久 田村 佐重 渡邊 靖 徳永 静 福島 敏郎 平田 佳邦 牧 宏 牧野 迪正 堀 武 筑 建彦	栗原 孝夫 工藤 富司 細谷 文夫 篠崎 清 渋谷 六郎 小谷 豊 西田 金誉 石渡 正夫 村松 勉 竹原 晃 坪井 聰介 田尻 勝紀 田村 浩司 田中 保 渡邊 高章 東海林 正 網代 良太郎 野村 亀利 矢作 栄甫	藤森 信正 木佐貫 秀彌 <b>昭和35年</b> 安達 昭郎 遠藤 脩造 河合 哲次 笠井 啓也 梶原 康敬 関口 勝 丸山 長資 宮本 實 金沢 成光 黒木 妙子 佐久間 恒和 山本 成也 斯波 義男 小見川 健 小野 清人 神宮司 弘 杉崎 秀夫 西嶋 泰世 青木 滋夫 倉形 邦英 村川 信子 塚原 俊一 渡邊 高章 内藤 晴義 難波 純一 尾崎 武二 米田 修一 野島 秀次郎
<b>昭和17年</b> 佐藤 恒男 小川 守三 水田 彰 柳橋 栄	<b>昭和25年</b> 吉田 耕一 古舘 和夫 黒須 朗雄 榊田 雄三 市川 安邦 石田 宏 尾高 陽一 木根洩 弘水	<b>昭和29年</b> 井上 秀雄 加藤 浩一郎 石井 喜悦 浅川 和昭 村松 俊作 大内 蕃 瀧谷 俊雄 谷川 清 中村 百樹 中嶋 貞夫 藤波 篤郎 尾崎 実 米山 廣保 廣橋 亮	<b>昭和33年</b> 神宮司 弘 阿部 正明 永井 滋 加賀 勘之助 丸山 義三 宮森 隆志 熊谷 祐一 原 幹夫 五十嵐 輝行 才木 義夫 守屋 伊佐雄 小林 脩一 神宮司 弘 青山 功 青山 達也 青木 弘 倉形 邦英 大井 壽 滝淵 幸二 藤田 亘弘 柏崎 敏郎 富士田 諄一郎 齋藤 二郎	<b>昭和36年</b> 宇賀治 正名 越智 健二 横山 樹静 仮戸 武 河内 宗弘 栗村 規雄 高柳 裕臣 佐藤 貞男 砂川 憲二 崎下 昌道 小串 照宗 松本 規雄 青木 俊一郎 芥藤 博 石井 四郎 村越 英彦 中村 紀史 中田 彰弘 渡部 長幸 畔上 統雄 木村 繁夫 門井 守夫 野村 友次 矢本 暖郎
<b>昭和18年</b> 加藤 泰正 吉永 利男 金井 昇介 穴山 義正 小林 和夫 川上 利重 大木 天材 平田 好顕	<b>昭和26年</b> 稲垣 正 加納 照彦 山口 猛 市川 安邦 小島 和夫 植村 治 清水 輝夫 川西 正人 村上 全司 太田 精一 棚橋 和弘 田中 幸徳 伊藤 達男 鈴木 一成 鈴木 信夫	<b>昭和30年</b> 加藤 五郎 笠間 三男 近藤 練太郎 金井 孝道 古川 新 高野 俊彦 小林 國平	<b>昭和34年</b> 伊東 明男 宇賀治 正名 横沢 才二 岩瀬 善則 吉川 和男 牛込 力夫 玉置 憲三 栗原 孝夫 高橋 秀雄 崎下 昌道 児玉 五男 小田切 孝光	
<b>昭和19年</b> 玉置 弥栄 神谷 洋 菅 秀夫 浅野 良哉 筑紫 宗光 矢野 誠 脇 幹夫	<b>昭和27年</b> 雨宮 学 外山 研次 高田 芳行 坂田 吾朗 市川 次良 勝又 茂 松井 孝 植松 貢 神戸 貞治 直川 準 日置 隆 柏木 治彦 林 貞吉 鈴木 明 和井内 徹	<b>昭和31年</b> 伊藤 博国 雁部 敬夫 橋本 圭右 高木 弦 小宮 順子 小松原 彬 小池 久則 川口 國雄 村山 政敏 竹林 信子 田中 宏之 田中 康博 米倉 久雄 矢野 弘子 役重 典之		
<b>昭和20年</b> 伊藤 晃 伊藤 和雄 磯 基道 畦元 直三郎 小口 敏太郎 神本 慶助 杉浦 銀藏 風間 匡英 有山 勝陽	<b>昭和28年</b> 岩崎 晃 吉川 和夫 宮尾 利政 栗田 吉男 三田 郁夫 植竹 和也	<b>昭和32年</b> 伊藤 孟 園田 勲		
<b>昭和21年</b> 松本 健次 杉山 忠次 中谷 宏 長崎 行太郎	<b>昭和22年</b> 稲垣 義雄 三川 清治 森山 晶生 曾根 博 増淵 昭敏 大森 威男 大川 襄治 廣田 博			
<b>昭和23年</b> 伊東 達郎 山下 登 上野山 高正				

<b>昭和37年</b> 伊地知 龍清 旭 重男 伊藤 成利 井上 靖治 奥山 正之 梶山 秀矩 銀林 博 駒井 俊雄 佐々木 賢明 斎藤 一郎 児玉 義宏 秋本 幹夫 小谷 嘉孝 小林 昭朗 庄司 翠 植木 庄左衛門 杉崎 秀夫 青木 匡 石岡 龍右 倉澤 守雄 長田 守一 津崎 信隆 徳永 喜八郎 堀 是治	齊藤 守圀 齊藤 博之 竹石 肇 中野 洪 渡辺 久和 渡辺 進作 嶋津 萬里子 藤池 誠治 藤池 曠子 楠 勝行 武田 幸久 片岡 康浩 野尻 義雄 矢野 彰一郎 遊佐 勝見 鈴木 功 鈴木 庸一 鈴木 良治 和田 高伸 齋藤 博之	<b>昭和40年</b> 稲葉 清彦 河村 勝弘 橋本 廣雄 向井 常雄 高間 伸一 笹子 謹一 三谷 治郎 上野 公雄 清水 博太郎 西脇 鉄雄 丹野 隆善 竹森 徹 島田 孝彦 幡野 匡彦 飯原 打越 飯野 宏治 木村 正尚 廣田 才之	<b>昭和41年</b> 白竜 美津夫 平井 栄司 館 敏夫 丸山 武紀 高桑 豊 今村 晃一 重田 勲次 上林 直也 真下 清 石原 祥江 相見 光郎 村井 直樹 中田 博 嶋田 晋廣 楠 勝行 芳崎 弘一郎 木村 勲 與田 正二郎	<b>昭和42年</b> 古阪 一昭 佐藤 馨 山崎 博 大川 清宏 栃木 勝己 能代田 順久 富田 潤一	<b>昭和43年</b> 宇智田 俊一郎 海上 幸三 佐藤 精二 松村 清利 新井 浩一 進藤 宣詔 進藤 宣詔 浅井 保雄	<b>昭和44年</b> 花井 秀之 関口 信夫 石山 利男 渡辺 光仁 八幡 順一	<b>昭和45年</b> 齋藤 菊夫 永島 一男 加村 尚喜 柿澤 修 宮内 和司 小林 満 滝戸 俊夫 田中 碩 土田 久	<b>昭和46年</b> 三宅 久利 齊藤 政久 渡辺 明典 島津 学	<b>昭和47年</b> 森 伸一 齊藤 菊夫 澤口 孝志	<b>昭和48年</b> 加来 文隆 関口 優紀 細谷 博邦 坂口 信昭 上條 治夫 川津 義人 渡辺 明典 櫻川 昭雄	<b>昭和49年</b> 小島 元昭 尾島 光春	<b>昭和50年</b> 関口 真理 上田 賢二 長井 一良	<b>昭和51年</b> 梶 公一 杉山 文敏	<b>昭和52年</b> 井上 久 新国 禎倬 深澤 豊史 谷藤 善美 土岐 正史 鈴木 一正	<b>昭和53年</b> 吉田 光夫 荒川 昇	<b>昭和54年</b> 阿部 健弘 諸原 浩 小笠原 幸道 浅野 祥司 大野 正博 木村 文紀	<b>昭和55年</b> 森 弘通	<b>昭和56年</b> 古屋 実 松島 浩 福井 博之	<b>昭和57年</b> 佐藤 慎一 中村 宏昭	<b>昭和58年</b> 岩崎 好高 栗原 清文 酒井 一徳 前山 龍一郎 前川 雅昭	<b>昭和60年</b> 鈴木 義弘	<b>昭和61年</b> 磯崎 勉 高間 幸夫 小嶋 芳行 森田 孝節 中西 剛 福元 俊之 片桐 正志	<b>昭和62年</b> 加藤 慎次郎 栗田 雅子 栗田 直人 勝又 雅子 松山 之則	<b>昭和63年</b> 三井 宏 石井 睦子 中西 剛	<b>平成元年</b> 磯崎 誠也 黒田 美和子	會田 直喜 <b>平成2年</b> 橋本 徳子 小川 誠 菅野 元行 石川 恵子 <b>平成3年</b> 村原 伸 <b>平成4年</b> 加来 洋子 宮崎 裕子 藤池 一誠 <b>平成6年</b> 遠山 岳史 佐藤 順一 <b>平成7年</b> 谷合 哲行 <b>平成8年</b> 川尻 善之 豊川 啓輔 <b>平成9年</b> 酒井 佳恵 浮谷 基彦 林 秀憲 <b>平成10年</b> 細田 武文 伊掛 浩輝 <b>平成11年</b> 松田 弘幸 <b>平成12年</b> 前田 英朗 <b>平成13年</b> 遠藤 正 長谷川 雄二 藤田 尚之 <b>平成14年</b> 吉川 賢治 佐々木 俊介 瀧澤 慶子 <b>平成15年</b> 山根 麻衣子 根木 隆之 佐々木 大輔 上原 愛花 藤田 泰 <b>平成16年</b> 熊谷 彬 後藤 裕幸 最上 尚行 小川 智美 瀧澤 慶子 田代 哲也 <b>その他</b> 青山 忠
--	--	--	---	--	--	---	---	---	--	--	--------------------------------	---	-------------------------------	---	-------------------------------	--	----------------------	---------------------------------------	--------------------------------	--	-----------------------	---	--	---------------------------------------	--------------------------------	---

以上 657名

## 編集後記

「工化時報」の第1号が昭和59年(1984年)に発行されて以来、会員諸兄のご支援ご協力の下に発行を継続させて頂き、この度第23号をお届けできることとなりました。本号では理工学部改革、産学連携、応化創設70周年記念事業のご案内などの話題を提供させて頂いております。「工化時報」は今後とも会員と応化教室、並びに会員相互の情報交換、交流の媒体として内容の充実化を図って参りますので、宜しくご支援の程お願い申し上げます。なお、19号発行分から、「工化時報」はホームページ上からもご覧頂けますのでご利用下さい。



<ホームページ> <http://www.chem.cst.nihon-u.ac.jp/index.html>

## お知らせ

### 平成19年度の行事予定

- 5/19(土) 工化会総会
- 7/21(土) 一日体験化学教室
- 7/29(日) CST オープンキャンパス 2007

### 連絡先

- ・工化会及び会費に関する問合せ→庶務(澤口 TEL:03-3259-0819)
- ・住所変更に関する問合せ→会員(櫻川 TEL:03-3259-0802)
- ・工化時報に関する問合せ→会報(秋久 TEL:03-3259-806, FAX:03-3293-7572, E-mail:jihou@chem.cst.nihon-u.ac.jp)

## 広告募集

工化時報では会社広告及びクラス会・同窓会報告を募集しています。掲載の詳細につきましては会報委員会までお問い合わせください。

掲載料 1件 : 10,000円

## 発行所

東京都千代田区神田駿河台1-8  
日本大学理工学部工化会会報委員会

◎伊藤和雄, 永島一男, 小川 誠, 橋本徳子, 石黒香織,  
秋久俊博, 谷川 実, 遠山岳史, 平野勝巳, 森田孝節

学生編集委員

M2 海東淳子, 北谷戸尚

M1 三浦義之

4年 珍田愛子, 中川友希, 名取美菜子

3年 須賀 徹, 官原潤一, 武山絵梨子

2年 石部奈美子, 竝木和彦, 平岡佐和子

ホームページ, <http://www.chem.cst.nihon-u.ac.jp/index.html/>